



✦受難節(レント)って何？

受難節の期節は、自らをかえりみ、悔い改めと祈りと断食と愛の実践に心かけながら過ごします。神の愛を、聖書を通して親しみ、味わいつつ過ごす中でわたしたちはキリストを見出すことが出来、イエス・キリストの死と復活を祝う準備へといざなわれます。

✦レント・受難節・四旬節

イースターの前の6週間(日曜日を除いた40日間)を**レント**と呼びます。レント(Lent)の本来の意味は、「長くなる Lengthen」という古い英語から派生し、日が長くなる季節「春」を指すようになったものです。レントを**四旬節**とも言いますが、その期間が40日間であるためです。**受難節**とも言うが、これが一番この期間の性格をよく表していると思われます。この期間は全人類の罪を担ってくださったキリストの十字架の苦しみと死が語られ、わたしたちの悔い改めと感謝の信仰が深められる時であります。

✦レントの日付と日程

- ・レントの期間を定めるためには、復活祭(イースター)の日付の確認がまず必要です。復活祭は、古代の教会会議において春分の日の直後に来る満月の次の日曜日と定められました。満月が日曜日である場合は次の日曜日をイースターとします。2026年の復活祭は4月5日ですので、レントは2月18日~4月4日となります。
- ・レントは毎年水曜日からはじまるため、受難節の初日を「灰の水曜日」と呼ぶ慣わしが昔からありました。旧約聖書によると「灰」は懺悔や悲しみの象徴として使われています。
- ・レントの最後の一週間は「受難週 Passion Week」と言います。受難週がはじまる日曜日はイエス・キリストがエルサレム入城の際、群衆が棕櫚の葉で出迎えたことに因んで「棕櫚の主日 Palm Sunday」と言います。

✦レントの守り方

- ・昔はこの40日間、断食(一般的には肉、乳製品、卵を絶つ)をしてキリストの苦しみに連なる実践をしていました。
- ・古代のキリスト教ではクリスマスよりも早くイースターが教会の祝祭として祝われていました。洗礼は年に一度イースターに行われていましたが、キリスト者になること・洗礼を受けることは各々の十字架を負い、主イエスに従う弟子として生まれ変わることであると考えた時、イースターこそ洗礼に相応しいと考えられたからであります。その際、レントは洗礼準備の期間として用いられました。

✦受難週

受難節の最後の一週間のことです。四福音書に記されている主イエスの最期の時を、日を追って辿ると以下ようになります。

日曜日：エルサレム入城

月曜日：宮清め

火曜日：神殿における説教と論争

水曜日：オリーブ山の付近で滞在。ベタニヤで一人の女性が主イエスに香油を注ぐ

木曜日：最後の晩餐。「洗足の木曜日」。ゲッセマネの園での祈り、逮捕

金曜日：十字架での死「受難日」「聖金曜日 Good Friday」、埋葬

土曜日：Black Day、聖書にも女たちが香油を準備する以外の記事はありません。

世の光として来られたキリストが埋葬され、世には光が消えた状態と
なっていることの象徴です。イースターに再び明かりが灯されます。

